

日 時：平成23年6月21日（火）18：30～20：40

会 場：練馬区役所本庁舎 19階 1902会議室

1. 事務局長挨拶

昨年度計画を策定出来たことは委員の皆様方のおかげであり、改めてお礼申し上げます。昨年までは計画を作ることが目標だったが、どのように具体的に計画を進めていくかが今年度の課題である。

年度初め震災への取り組みもあったが、人員体制も充実させていただいた。新年度間もないが、計画の中で、二つの重点事業に取り組みを始めているところである。職員が地域に出向いて、すでに活動されている方々にお会いして、社協の活動を説明しながら進めている。本日は計画をどういう方向で進めていくかを説明し、それに対するご意見をいただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

2. 配布資料確認

3. 第3次地域福祉活動計画 実施事業の進捗状況

資料1と本編P50～51を参照し、進捗状況として、小地域福祉活動への取り組みを中心に説明

4. 第3次地域福祉活動計画 重点的な取り組みの進捗状況

① 小地域福祉活動について（資料2）の説明

資料をもとに説明を行う。また、小地域福祉活動の推進を進めるにあたり、東社協の新たな事業として、23年度に住民の課題解決に向けた取り組みとそれを支える地域福祉コーディネーターとなる社協職員の支援方策をプログラム開発していくモデル地区の募集があったので、それに応募した。それを受け応募した、都内で西東京市、荒川区、葛飾区、調布市、小金井市、練馬区の6地区が選定された。他地区の情報を得ながらすすめていきたい。その担当者の東社協職員も本日参加してもらっている。

○練馬区のモデル地区で行っているアンケート調査の途中結果を報告する。（参考資料にて説明）

○小地域福祉活動の取り組み（資料3）の説明

豊玉地区と光が丘地区の団体等に聞き取りをした中から、特徴を説明

〈質疑応答〉

委員長：東社協の実施する小地域福祉活動のモデル地区が6か所あるが、それぞれの地区で地域福祉コーディネーターを職種として置いているのか、また、どんな役割を持っているのかを聞きたい。

東社協：西東京市は地域福祉コーディネーターを1名配置して2年くらい。小学校区に住民懇談会の組織があり、それをベースにして広いエリアを担当している。役割としては地域課題の個別支援

から仕組み作り、住民の協力者を募りながらすすめている。荒川区はサロンの支援の担当者の名称としている。調布市はボランティアコーナーが設置してある地域で、ボランティアコーディネーターを地域福祉コーディネーターと名称を変更して取り組み始めている。

委員：豊玉地区の分析については、見方によってはありのままだと思う。

委員：光が丘団地内でも賃貸、分譲様々である。管理組合や自治会など活動に参加する人が高齢化している。新たに老人クラブをつくったら、徐々に増えており、そちらにシフトしつつある。集会所を改装し、団体が利用しやすくし、管理組合等が総会をできるようにした。また新しい住民に対しては、納涼会などイベントで子どもや外国人を巻き込み、つながりを持てる機会をつくっている。団地内だけでなく、外へ向けてつながりを広げてきている。おせっかいをすることで、つながりが広がりつつある。しかし自治会のない地域もあり、働きかけはしている。

委員長：アンケート調査の中で、活動拠点の状況は資源としてどうなっているのか？

→ 光が丘団地内の集会所は丁目ごとに4～5つはある。

委員長：活動の場の確保に苦労しているという声がある。活動の場所として設備の情報を広げることで、活動の場が増えるものなのかは調べてみないとわからない。

委員：だれでも気軽に使えて、のぞける場所をつくりたいが、利用規約の問題もでてくる。

委員長：地域福祉計画でのアンケート調査では、どこの地域でも活動場所の確保と情報の提供の要望は高い比率で出てくる。本当に場所がないのかを検証しないと場所を設けたり、情報提供しても次のアンケートでも活動の場がないという結果が出ることもある。ニーズにあったものであるかどうかが重要である。

委員：豊玉地区は商店街と住宅地と団地がある。人はポストに就くとやる。各々の場でキーマンになるリーダーが大事。

委員：震災での社協の取り組みによって得られたことはあると思う。光が丘の避難所での取り組みが小地域福祉活動にどのようなにつながったかを聞きたい。

→ 物資の受付をした際に、消防関係や民生委員さんやいろいろな所属の人たちなどボランティアで関わる人たちと会えたことは大きい。直接話を聞き、考えを聞いたのはよい機会になった。出会いの場としてはスタートラインが出来たのは良かった。

→：災害を通して、支え合うことを一緒に考え合う場として、勉強会も開いた。

委員長：震災は、共通のことを考える起爆剤にはなった。今後どのように支えていくのかを考えるきっかけになった。

→：住民が考えるきっかけになり、今後の話し合うキーワードが出てきたので、学びの場を通して、つながっていくこともできるのではないかと思っている。

委員：住民として、自治会で集会所を防災拠点として考えようという動きになり、管理組合も考えかたが変わってきた。管理組合の理事会ではお子さんのいる家庭などの出席者が増えた。そして理事は交代制で、年代も様々だが、共通課題がいくつか出てきた。

委員長：高齢化の問題より防災に関してはみんなが想像しやすい。どれだけ共通課題を見つけていくかである。

委員：光が丘の相談件数が22年度増えた理由はなにか？リーマンショックなどによる経済的なことなどが影響しているなどのはっきりした理由があるのか？豊玉と光が丘の地区とは、活動計画内で言っている3万人規模の第3層エリアのことを差すのか？

→：相談件数の増加は、経済的な背景とかではなく、相談のしやすさなどにあると思われる。エリアについては、民協の地区と同じ範囲と考え、民生委員協議会にもあいさつに行っている。

委員長：練馬ボラセンの相談は豊玉地区だけの相談件数ではなく、練馬全体の相談が来ていることを考える必要がある。

委員：資料の2の地域課題については、相談傾向からみた課題を単に例として挙げているのか？今後の取り組み課題としてあげているのか？

→：今後の取り組みではなく、特徴としてとらえたことを挙げているだけである。すぐにそれに対して取り組むわけではない。

委員長：調査報告については、対象が60歳以上という限られたなかで、数字の%だけで分析するのではなく、目的に合わせてみていく必要がある。同じ人にアンケートをして、2年後にどのように変わったかを知るための調査であることを押さえておくことが大切。

② 人材育成の充実について（資料4）進捗状況を説明

〈質疑応答〉

委員長：相談委員会の取り組みを通して、アンケート結果から職員の意識が変化してきたことなどの見えてきたことを日本地域福祉学会で発表・報告をしたということであるが、その時にどんな質問がでてきたか？

職員：他社協職員からの社協職員らしさとは何かなどの質問や毎回スーパーバイザーを入れた意義などの質問があった。また、コメンテーターの大学教授から、職員を中心にしたアンケート調査は珍しい取り組みであり、地味な研究ではあるが、社協の内部の底力を上げていく社協でしかできない研究であり、とても重要な調査であるとの講評があった。

活動計画を推進するに当たり、各部署から職員を出して、プロジェクトチームとして委員会をやってきたことは社協全体での取り組みとして職員が主体的に考えられるようになってきたことなどは良い形で成果が出ている。

委員：リーダーの条件として、実行力、企画力、統率力、先見性、教養が必要。それらを備えたリーダーを探すのは大変である。

委員：リーダーは好きこそものの上手である。好きなことは率先しておこなってくれる。

委員：地域を支える人材の問題として、いかに若い人材を育てるか。子供関係で困っている問題が多くあるので、ぜひ児童館やこども家庭支援センターなどに出向いてほしい。子育ての団体に社協が出向いて、つなげていく事で地域とつながりができていくと良い。子育てに関わった人はいずれ地域に戻ってくる。大学生が就職のためにボランティアを希望してくる機会が増えている。それをきっかけにしてもよいのではないかと思う。大学側と社協のボランティアセンターがつながる事も有効だと思う。練馬区内の大学に入っていったらどうか。

→：今まで社協から大学に積極的に働きかけていないが、大学生側からボランティアの問い合わせがきている。

委員：ボランティア活動としては、青少年育成地区が20団体あり、光が丘などにもある。中学生がリライアンスというグループをつくり、連携して共同募金などを行っている。

→：授業の福祉体験を通してつながった高校生のボランティアが、白百合やかたくりなどのまつり

に参加してくれている。

委員：問題がないわけではないが、問題にぶち当たっていないと必要性を感じてもらうことは難しい。コーディネーターは顔を出しただけでなく、何か課題が見つかった時に具体的に繋げていくのが役割。具体的な動きに乗っ取ってどのように解決していこうとしているのか、どう繋げていくかを見てもらうことで信頼が出来る。

委員：社協をよく知らない団体は社協につなげるという発想がないので、問題が出てきにくいこともある。相互につながることも必要だし、顔を出すことも大事。

5. その他

○東日本大震災への対応について（資料5）の説明

○大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーの移転について（ぼけっと・リーフレット参照）

5月24日に移転完了。

6. まとめ

副委員長：立派な活動計画が出来てうれしい。2年間で具体化するためにどうしたらいいかと考えると、職員が主体的にどれだけ動くかにかかっていると思う。実習生を受け入れていて思う事は、まとめは上手だが、相手に寄り添える人が少ない。練馬区社協の立派な理念を仕事の中で具体化するのは大変なことだが、やっていく必要がある。

委員長：立川の例として、猫の問題から、地域の課題としてつなげていった例がある。問題を解決しながら繋がっていく。人の力量には限界があるが、誰につなげれば課題が解決していくかが実感として伝わると良い。北海道の地域の例で、サロン活動を通して職員が課題を拾い上げて解決していくのを周りが理解してくると自然と問題が社協につながっていくようになったという話もある。それを念頭に置いてつなげていくと良い。

7. 次回の日程について

11月22日（火）18：30～20：30を予定

場所は練馬区役所本庁舎19階 1902会議室